

平成19年度（2007年度）京都大学全学共通セミナー
「生命とは何か？」を終えて

1. 講師の感想
2. 学生の感想

1. 講師の感想（担当：村瀬雅俊）

この全学共通セミナー（ポケットゼミ）は、2007年10月に基礎物理学研究所が主催する国際シンポジウム（組織委員長：村瀬雅俊）

『生命とは何か？湯川のこれから100年の夢』

<http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~ny2007/Menu.html>

<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/jp/index.htm>

に向けた序論と位置づけて開講された。

現代社会を見渡してみると、物質文明の豊かさにもかかわらず、こころの豊かさがなかなか実感されない。学問に目を向けてみても、細分化された膨大な知識の集積にただただ圧倒されてしまうばかりで、一向に学問探究に向けた能動的な興味、関心、意欲が沸き立つ気運が高まってこない。

この講義では、特に対象に関する専門的な知識を提供することではなく、知識の獲得が生物進化と同型の構造を取ること、そして対象認識の認識—すなわちメタ認識—を行うことに重点を置いた。さらに、こうした認識の高次化を通して、私たちは自らが主体となって知識を再構築できるという体験を、体得することを目視した。

私の意図は、自然科学、人文科学、社会科学、ひいては、宗教学や芸術学をも視野にいれた統合科学あるいはメタ科学といったものを、具体的な生命現象を手がかりとして提示してみることにあった。以下に要約した学生の感想を見る限り、この意図は多少なりとも受け入れられたように思われる。

もちろん、最高学府での教育の意義は、先端境界領域の学問の現場を提供しながら、学生一人一人が自らの特性を意識できるようになり、かつその特性にあった主体的な学習スタイルを自得できるように支援することにある、と私は思う。こうした試みの成果が本当に顕在化してくるには、長期的展望が必要である。その意味では、今後の学生一人一人のさらなる成長を影ながら期待・応援したい。

2. 学生の感想

この授業に出席するとき、いつも知恵熱が出ました。いつも心臓がパクパクしていましたが、自分の旧来のものの見方を壊される不安と新たなパラダイムを得る興奮だったんだと思います。

この授業を受けた最大の動機は単純な興味だった。文系学部の自分が、自分にとってはハイレベルな理系の講義を通して視野を少しでも広げることができればいいと思った。結果として、この講義は理想的であったように感じている。授業内容の興味深さ、レベルの高さには充実を強く感じた。また、同じ授業を受講しているみんなのレベルの高さも、私にとってとてもいい刺激となった。同じテーマについて考えているのに、関心のベクトルの違いでさまざまな見解が出てくることも楽しいと感じた。途中で難度か出てきた、純粋に理系的な内容はさすがに理解しがたく苦勞もしたが、この講義を受けなかったらおそらく触れることすらなかったであろうという内容で、貴重な経験だったと思う。もうひとつ些細なことかもしれないが、本を読む大切さという、大学での自分の研究全般にかかわるような姿勢まで、私はこの講義で学ぶことができた。

最後にこのレポートを仕上げながら、自分の中で驚くほど知識が体系的にまとまっていく過程に感動し、一種の興奮すら覚えた。大学での文化人類学の授業や中学での保健体育の授業で得た知識を、自分なりにこのレポート内容に関連づけられたとき、単純にうれしかった。時間をかけて認識論から学んだ成果を、拙いながら得られた気がした。このような機会を与えてくださった先生に純粋に感謝しています。ありがとうございました。

このポケゼミを取ったこと、村瀬先生に会えたこと、そしてこのポケゼミを取ったほかの人たちと会っていろいろな話が出来たことは本当に良かったと思います。私の「生命とは何か」への探究はこれからです。ありがとうございました。

シラバスのタイトル「生命とは何か」に魅かれて、内容も深く読むことなく応募してみると、想像と大部違いました。もう少し生物機構的な、理科的な側面から「生命とは何か」を考えていくのだと思っていましたが、実際は哲学でした。でもこういうのもいいんじゃないかと思って結局最後まで授業には出続けました。最初の方は、まだやる気はたった方ですが、最後の方は、日本語の講義でも分かりにくい内容を英語でされてより一層分からなくなりやる気が失せました。でも英語講義の内容は日本語で前にやったのと重複していた点が多いので少し安心していられました。もう少し「生命」そのものについて議論が

したかったです。何かキッカケは得られたと思います。

自分で考え、それをプレゼンテーション形式で発表する授業スタイルは、ポケゼミらしく新鮮で面白いものでした。課題に取り組むと理解が深まったなどという感触を強く得られましたので、ミニ課題みたいな感じで、毎週手頃な課題があるといいなと思いました。内容に関しては哲学的なものが多く、理系ながら文系の内容にあこがれ総合人間学部に入った僕にとっては面白かったです。ただ授業の内容がよく分からないとき（何がわからないか分からないときなど）は、どうしても授業が退屈に感じることはありました。自分で考えることが本当に楽しいことなんだなと実感しました。